

豊かな自然や暮らしを 次世代につなぐ、 新たな島づくりへの出発

『対照的な性格を有する二つの島』

日本海北部に浮かぶ天売島てうりとうと焼尻島やぎしとうは、北海道羽幌町の西方海上二四キロメートルに位置する、個性あふれる島々です。豊かな自然と独自の文化とともに、長年にわたる地域住民のためまぬ努力によって、その暮らしが支えられてきました。

天売島は、世界的にも貴重な海鳥の繁殖地として知られています。オロロン鳥（ウミガラス）をはじめ、多くの海鳥が集まる島として、国内外から研究者や観光客が訪れます。断崖絶壁が連なる雄大な景観は、島の象徴ともいえる存在です。

焼尻島は、対照的に穏やかな自然が広がり、原生林「オシロの森」や牧歌的な風景が特徴です。島で育つサフオーク種の羊は、全国的にも評価が高く、食と景観の両面で高い魅力を持っています。

それぞれ異なる個性を持つ天売島・焼尻島は、羽幌町の文化・産業・観光を担う重要な地域です。しかしながら、両島の人口は昭和二五年の四八八一人を頂点に減少を続け、令和八年七月末時点では三六七人と、ピーク時の一割にも満たない水準まで落ち込んでいます。過疎と高齢化は、もはや将来の懸念ではなく、日々の暮らしを支える体力そのものに直結する切実な課題です。

北海道羽幌町長

森 淳もり あつし



昭和27年羽幌町生まれ。法政大学卒業後、自営業を経て平成7年に町議会議員へ転身。議長を3度務めるなど、長年培った議会での知見を活かし、令和5年5月羽幌町長に就任。



焼尻島・鷹の巣園地から天売島を望む。

【 運賃・輸送コストの軽減に期待 】

こうした危機感の中、令和八年七月の有人国境離島法の改正により、天売島・焼尻島が新たに特定有人国境離島地域へ追加指定されることになりました。平成二九年の法施行以来、初めての地域追加であり、現行の一五地域七一島に、天売・焼尻を含む四地域六島が加わります。両島が新たに特定有人国境離島地域として指定されたことは、島の未来にとって大きな転機となります。法改正実現に向けてご尽力くださった衆参国会議員の皆様をはじめ、多くの関係者の方々に、心より御礼申し上げます。

今回の法改正には、都道県の地域社会維持に向けた施策実施の努力義務や「滞在型観光の促進」も新たに盛り込まれており、両島の魅力を島外へ発信していく上で大変心強い後押しになるものと確信しています。その中で私が最も注目し、期待しているのが、国による「航路運賃の低廉化」と「地場産品の輸送コスト負担の軽減」です。羽幌港からのフェリーや高速船が唯一の交通手段である両島において、通院や買い物など住民の暮らしに直結するこの支援の恩恵は計り知れません。運賃負担の軽減は、島に住み続ける安心感を高め、若い世代の定住や

移住を呼び込む大きな原動力となります。

さらに、水産品の出荷や原材料の移入費用に対する支援も、漁業が基幹となつてゐる島にとって大きな支えとなります。これまで負担を強いられていた単価の安い魚種に対する支援の拡充を期待する声も挙がつており、輸送コストが抑えられることは、漁業者の意欲や所得向上に大きく貢献します。

航路運賃の低廉化による「暮らしの安全」と特産品の輸送支援による「産業の発展」は、まさに、地域社会の維持という法の目的に最も直接的に寄与する施策であると確信しています。

特定有人国境離島地域への指定は、ゴールではなく、これからの振興に向けた出発点です。観光振興や地場産業の発展へとしっかりと結びつけ、新たな魅力や雇用を生み出すことで、次の世代を担う若い人たちの定住や移住へと結びつけていきます。島外から吹き込む新しい風と活力が、いま島に暮らす住民の元気にもつながっていく——そんな好循環を、この天売島・焼尻島に創り出したいと考

—島からの声—

持続可能な島づくりに向け、 若者の参画に期待

このたび私が暮らす天売島と、隣の焼尻島が特定有人国境離島地域に指定される運びとなりました。北海道の日本海側に位置する有人離島5島のうち、天売・焼尻だけが同地域に指定されていなかったため、今回の追加指定は大変喜ばしく、今後の両島の住民生活の活性化につながると期待しているところです。

過疎化という地域の状況は、天売島に限ったことではないと思います。しかし、私が小学生だった40年前は800人近くいた人口も、現在では220人台まで減っています。この島で生まれ育った私にとって、毎年のように人口が減っていく様子を見るのはやはり寂しく、なんとか人口減少の速度を緩やかにしたいと思い、島の仲間たちと地域おこし団体を立ち上げさまざまな活動も行なってきました。

離島に暮らす中で大変なことといえば、やはり人も荷物も輸送コストがかかること、また医療や教育面でも不利があります。そんな中でも、ここ数年で天売島に移住した方もいますし、将来は島で暮らしたいと話す若者もいます。住宅の確保なども含め、移住希望者の受け入れには多くの課題がある現状ですが、特定有人国境離島に指定されたことで、これらの負担の軽減につながってほしいと、私たち離島住民は願っています。

行政に頼るだけでなく、われわれ住民自身も将来へ向けたビジョンをしっかりと持ち、これからも暮らし続けられる島づくりをしていきたいと思っています。

(一般社団法人天売島おらが島活性化会議代表理事 齊藤 暢)

えています。豊かな自然と、そこに根づく温かな暮らしを次世代へしっかりと引き継いでいくために、町として、そして地域に生きる一人として、これからも皆さんとともに一歩一歩、歩みを進めてまいります。